

未来の世代への責任～アナログ人間のつづやき～

ながれ

上遠 恵子 (かみとお けいこ / レイチェル・カーソン日本協会)

ロシアのウクライナ侵攻が始まって一年経ち、80余年前に始まった太平洋戦争の怖さ悲惨さを体験してきた私としては、未来の世代への責任といえば「平和な世界にすること」と、ためらいなく言えます。それにはどうしたら良いかと考えている時、広島でG7が開かれましたが「核廃絶」に一言も触れない、なんとも歯切れの悪い「広島ビジョン」でした。

カーソンの遺言

そんな時レイチェル・カーソンが1963年10月にサンフランシスコで医学関係の人たちを対象にした講演記録を読み返しました。

この話は以前にも書いたことがあるので重なりますがお許しください。「環境の汚染」と題したこの講演の内容は、「沈黙の春」の著者として化学物質による環境汚染を語っていると思いきや、その多くは放射性物質による汚染について語っています。まず原爆の大気圏内実験と地下実験による放射性物質の残留に触れたのち、“第三に、放射性物質による環境汚染は、原子力のいわゆる平和利用ともきってもきれない関係にあります。こうした汚染は、突発的な事故によっても生じますし、また、廃棄物の投棄によっても継続的に起こっているのです。私たちが住む世界に汚染を持ち込むということの根底には道義的責任——自分の世代ばかりでなく、未来の世代に対しても責任を持つことについての問いがあります。当然ながら、私たちは今現在生きている人々の肉体的被害について考えます。ですが、まだ生まれていない世代にとっての脅威は、さらに計り知れないほど大きい

のです。彼らは、現代の私たちが下す決断にまったく意見をさしはさめないのですから、私たちに課せられた責任は極めて重大です。” (リンダ・リア『失われた森』集英社)

ほぼ60年前に語られたこの言葉は、福島原発事故を経験し、汚染水の放出を始め多くの問題を抱えている現代の私たちに迫力を持って訴えてきます。まさにレイチェル・カーソンからの私たちへの遺言と言えます。

死の灰とDDT

1954年、アメリカが南太平洋ビキニ環礁で行った大気圏内での水爆実験によって、日本のマグロ漁船、第五福竜丸はじめ多くの漁船が被爆し、久保山愛吉さんが亡くなりました。その4年後、「沈黙の春」の執筆をはじめたカーソンには放射能を帯びた「死の灰」と「DDT」の白い粉が、ともに生命に対して危険なものであると感じられたのでした。「沈黙の春」のなかには、ヒロシマのことも久保山さんのことも書かれています。また、“化学物質の影響は、放射性物質と同じように” という表現が何回も出てきます。

私が汚染という言葉を意識したのは、1954年のマグロ漁船の被爆による汚染マグロです。1953年に放映が始まったばかりのテレビのニュース番組で、築地の魚市場に水揚げされたマグロにガイガーカウンター（放射線測定器）を当てるとガリガリという音がして、レポーターが“これが放射能汚染マグロです”という興奮した報道がありました。大気汚染とか農薬や添加物による食品汚染などという言葉があまり聞かれない時代でしたから、私は汚染と聞けば放射能と反応してし

まいます。放射性物質の問題は次世代へ残したくないものです。

ウクライナ侵攻によって世界中のエネルギー情勢が変わっていくにつれて、岸田政権はいとも簡単に原発の耐用年数を20年も延長してしまいました。この地震国日本に現在再稼働しているのは数基だとは言え、54基もの原発があることは、どう考えても未来の世代に残してはならないものだと思います。

人工頭脳に頼っていいの？

この原稿を書いているうちに、チャットGPTの話題がにわかに賑やかになってきました。アナログ人間を自認する私としては、とてもついていけない世界です。ビジネスの世界では利点があるかもしれませんが、創作や教育の世界ではどうでしょうか。

私は、20年ぐらい前にある団体の読書感想文の審査員をしたことがあります。課題図書は、自然を対象にした本でした。応募した大学生の感想文の中に、非常にそつなく整った感想文がありました。しかし、何度読んでも書き手の人間性が感じられないのです。極端な表現をすれば“見てきたような嘘を言い”というような感じが漂っていました。後になってよく聞いてみると、その頃話題になっていたウィキペディアの文章を使っていたことがわかりました。その時私はなんとなく空恐ろしさを感じたものでした。

AIの急速な進歩は現在のチャットGPTを生み出しました。これには物事が効率的に運べる利点もあるとは思いますが、諸手を挙げて賛成できない気持ちです。私はいま、図書館で文献を調べ何冊もの本を読んでレポートを書いた学生時代を思い出しています。どんなに稚拙でも自分で書き上げたというあの達成感は忘れられません。この気持ちを未来の世代にも味わってもらいたいと強く思いま

す。テレビでは東大の五月祭で、チャットGPTを使っただけの模擬裁判の様子を放映していました。しかし、これを開発した本人が規制した方が良く発言したと聞いて、複雑な気持ちです。

自然を残す責任

どんなにAIが進化しても春夏秋冬の自然の営みの速度を変えることはできません。これまで私たちはひたすら便利さと豊かさを求めて手にした科学技術で、この地球を我が物顔に使ってきました。その結果、温暖化、頻発する山火事、水害、氷河の消失などが起きています。コロナウイルスも折角密林の奥地に棲み分けていたのに、人間が森を切り開き、道路を作り、また宿主の一種であるセンザンコウを食用にするなど近寄りすぎたことによると言われています。

現代に生きる私たちは、まだ生まれていない未来の世代のために、自然を回復し温暖化を阻止する努力をしなければなりません。

『果てしない物語』や『モモ』の作者で1995年に亡くなったミヒャエル・エンデは、生前“第三次世界戦争はもう始まっている。それは未来の世代に対して今生きている我々が仕掛けている戦争だ。”と言ったと聞きました。

私たちは、いま立ち止まり真剣に考える時がきていると思います。全世界が心を合わせて地球を守らなければならない時ではないでしょうか。

未来の世代に“貴方たちは一体なにをしてきたのですか？”と詰問されないように。

